

令和2年度 後期学校関係者評価書

南アルプス市立大明小学校

第2回 学校関係者評価委員会

1 実施日 令和3年1月14日（木）午後7時00分～午後8時00分

2 会場 大明小学校会議室

3 参加者 学校関係者評価委員
石田 敏枝（委員長）
杉山由貴子
市川 和男
市川 政子
高野 晃史
山本 幸希
山本 未央
学校職員
穴山 直樹（校長）
内藤 賢（教頭）

4 学校から提案された内容

- (1) 学校経営のようす（校長）
- (2) 学校の自己評価について説明
 - ①保護者アンケート（教頭）
 - ②教職員による自己評価（教頭）
 - ③児童アンケート（教頭）

5 特に協議された内容の概要

- (1) 保護者アンケート結果
 - ①学校の施設整備について
 - ・今年度、屋上の防水シート貼替、体育館の雨漏りの抜本的改修、プール内壁・底の塗り直し、エアコンの追加設置など、高額な改修が実現したが、まだまだ修理が必要なところが多々ある。また、教室がたりなくなっている問題もある。教育予算が年々減額になる中で、限られた予算を適切に使わなくてはならない。
 - ②災害・安全対策
 - ・感染症対策では、文部科学省からの「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～」に基づき、対策を緩めることなく続けてきた。感染の波がある中で、意識を常に高く維持することはとても大変だったが、ご家庭でのご理解・ご協力がとても心強く、おれることなく対策がとれている。学校として具体的にどのように取り組むかを発信し、ご家庭と連携して取り組んでいるのがよいと感じている。今後も感染症対策は続くが、状況に応じて適切に対応していきたい。
 - ③児童の学習理解
 - ・わかる授業を日々行っていくことがもちろん大事だが、児童は、授業ではわかったつもりでも忘れてしまいがちである。一律に宿題を増やすことには問題があるので、自主学習を強化していく。3学期には強化週間を設定して全学年で自主学習に取り組む予定である。

④あいさつについて

- ・なかなか改善されない状況が伝わってくる一方で、現状を心配する保護者の方が、児童からあいさつが返ってこなくても粘り強くあいさつを続けてくれている様子が伝わってくる。
- ・通学路には、多くの方が自主的に見守りをしてくださっていてとてもありがたい。大明小学区のすばらしいところだと感じる。見守りをしてくださる方々には、児童があいさつできるようになってほしい。学校でも、改めてあいさつを強化したい。
- ・あいさつは、保護者、地域と学校がそれぞれ取り組んでも、「家ではするが学校ではしない」とか、「学校ではするが地域ではしない」といった限定的な状況がなかなか改善しない。保護者、地域と学校が連携した活動を行うことを提案する。

⑤早寝・早起き・朝ごはん

- ・基本的な生活習慣が、前期に比べやや低下してきている。学校でも生活指導により支援をするので、家庭での生活習慣向上に向けてご家庭で引き続き取り組みいただきたい。

⑥学級編制について

- ・学校の学級数は、県教育委員会が条例に基づいて決めており、学校で自由に決められるものではない。山梨県には独自の学級編制のしくみである「はぐくみプラン」があるが、実は学年2学級以上の場合が対象であり、本校のような学年1学級は35人学級の対象にならない。「はぐくみプラン」についてニュース等で正確に説明しないので、学校で保護者に説明する必要がある。

⑦通学路の安全確保について

- ・通学路点検で報告を受けている個所について、各地区の自治会長さんと連携して市に改善をお願いしている。今回保護者から改めて要望されている体育館南側の道路の曲がり角へのカーブミラー設置については、この道路沿いにある家の件数が少ないためにカーブミラー設置基準外となり、設置が実現できなかった。

(2) 児童アンケート結果

①学校は楽しいか

- ・肯定的評価が95.86%で1学期とほぼ同じであり、3年生以上で96%以上となっている。理由は、「友達と遊べるから」「勉強が楽しいから」が多い。楽しくないと答えている児童の理由は「勉強がわからない・いやだから」「いやなことを言われる」となっている。勉強がわからないと答えた児童に対して担任が状況を把握し、よりきめ細かな支援をしていかななくてはならない。

②学校へ行きたくないと思うときがあるか

- ・肯定的評価が86.9%となっている。5年生は95%、3年生は93%と、高い数値になっている。行きたくない低学年の理由は、「勉強がいや」「休みたい・早く帰りたい」等であり、中学年は、「勉強がいや」「疲れている」等、高学年では、「休日明けでつらい」「疲れている」となっている。低学年の「ねむい」「疲れる」の理由は減った。

③勉強がわかるか

- ・肯定的評価が95.4%であり、特に3年生は100%になっている。今後もわかる授業づくり、学習したことの定着、家庭学習の充実を全職員で実践していく。

④あいさつができたか

- ・肯定的評価が80.9%と、1学期に比べ若干減っている。学校でもさらに取り組むが、学校と家庭の連携が必要と考える。

(3) 教職員による自己評価

①教育目標について

- ・今年度重点目標のあいさつができていない。教師が声をかけても無反応の児童がいる。
- ・学校教育目標や経営方針は、コロナ禍により来校してもらっての説明機会がないので、学校だよりやホームページ等で発信していく。

②経営・組織について

- ・本校の研究主題は、本校課題に対して適切なものであった。11月の公開研究会で行った、研究の成果を取り入れた研究授業は、参観した他校の先生方や来賓にも非常に好評であり、大明小教育が確かなものであることが確認できた。

③家庭・地域との連携

- ・児童の集団登下校には課題があるが、日々、多くの保護者、地域の方が集団登下校に付き添い見守ってくれていることは非常にありがたい。
- ・学校応援団については、来校されるボランティアの方を新型コロナウイルス感染症から守ることも考えることが大事なので、今年度は、室内の活動はあまりできていない。

④あいさつについて

- ・集団登下校にご協力いただいている保護者や地域の方々にもあいさつできるように、3学期のスタートとして指導を強化した。
- ・学校では、皆で、共通の意識でどんどん声かけをしていく。

⑤給食指導について

- ・感染症対策としても給食指導を徹底している。各学級での指導の様子を保護者にも見ていただきたいし、周知したい。

6 協議の場でも出された意見等

(1) 児童の学習理解について

- ・冬休み中の宿題の量が、学年によって差がある。今年度は冬休みの友がなかったのが原因だと思われるが、兄弟姉妹によって取り組み状況が大きく変わってしまうので、ある程度基準があるとありがたい。
- ・宿題の量は、家庭によって考え方が違うため、「多い」ととらえる家庭もあれば「少ない」ととらえる家庭もある。学校で示したように、学年に応じた自主学習に取り組むのがよいのではないか。3学期の自主学習強化週間での取り組みに期待したい。
- ・新学期開始の遅れにより、学習の遅れをどう取り戻すかが心配されたが、先生方のがんばりで取り戻すことができきており、安心している。

(2) 学級編制について

- ・保護者は、ニュースでの情報しかないので、山梨県の35人学級制度「はぐくみプラン」の実情を知らない。学校で「はぐくみプラン」について詳しく説明してくれたことで、本校3、6年生が、なぜ36人以上在籍するのに1学級のままなのか理解できた。3、6年生の保護者は、知らないで疑問に思っているの、学校だよりや学年部会等で説明するとよい。
- ・国が35人学級に動いたのは、教室内での感染症対策の一面があると認識している。学年1学級でも2学級でも「密」への対応は同じでなければならないはずである。学年1学級でも35人学級が実現するように、機会があれば学校から働きかけをしてほしい。
- ・36人以上の学年1学級でも、よいこともある。例えば6年生は、皆とても仲が良く、きずなが深まっている。互いに配慮もできるようになっている。また、3年生も、「1学級のままでいい、クラスが別になるのは嫌だ」と言っている子もいて、大人数であることで人間関係を学べている。

(3) 通学路の安全について

- ・通学路の安全確保について、要望が通って改善される場合もあるが、要望が通らないこともある。しかし、児童にとっての安全を確保することが最優先されるべきなので、今回のカーブミラー設置場所は、設置基準外であっても市はできることを考えて対応してほしい。

(4) あいさつ指導について

- ・楡形西小は、伝統的にあいさつが習慣化している。同じ児童が何回すれ違っても、その都度必ずあいさつするほどで驚いている。伝統の強みもあるが、どんな指導をしてきているのか参考にしたい。

貴重な御意見、ありがとうございました。

評価書作成責任者

関係者評価委員会委員長

石田敏枝